

緊急情報！

古い消火器の破裂事故が発生！

屋外に置かれたままになっている消火器を見つけたら、むやみに触らないでください！

平成21年9月15日午後4時55分ごろ、大阪市東成区の駐車場において消火器の破裂事故があり小学生男児1名が頭を負傷し意識不明の重体となりました。

破裂した消火器は20年前に製造されたもので、不要になったため別の場所から破裂事故のあった駐車場にまとめて置いておかれていたもので、誰でも触れる状態であり、その周辺で遊んでいて事故にあったものです。

消火器の底の部分がさびていて、何らかの原因で消火器内の圧力が高まり、もろくなっていた底が抜け、破裂したものとされます。

主な消火器事故			
発生日月	発生場所	被害状況	事故の状況
1996. 11	横浜市	1人けが	消火訓練中に口金が破損
1999. 12	東京都	1人けが	解体中に容器の底が破損
2001. 03	名古屋市	1人死亡	廃棄のための放射中に容器の底が破損
2001. 04	帯広市	1人死亡	野焼きの火を消そうとした際に容器の底が破損
2001. 11	いわき市	1人けが	子どもが空き地で遊んでいたところ、容器の底が破裂
2006. 09	京都市	1人けが	消火器内の薬剤を下水へ流そうと放射した際に容器の底が破裂

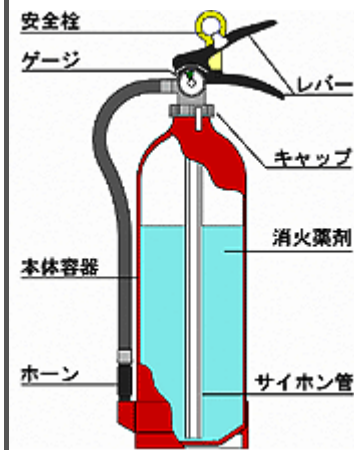
【古い消火器に注意】

消火器本体容器の耐用年数は消防法では定められていませんが、メーカー等では一般的に8年をめぐりに交換を勧めています。雨ざらしの場所や、厨房など湿気の多いところに設置していると容器が錆、また、操作機能にも影響を与えます。破裂事故の原因となっている消火器は、ほとんどが点検もされず、長年放置された古い消火器に集中しています。

耐用年数を過ぎた消火器はもちろん、耐用年数内であっても錆、腐食、変形、傷がある消火器は強度上危険です。たとえ訓練でも決して使わないでください。また、自分で分解したりすることも絶対しないでください。

消火器の疲労度チェック!

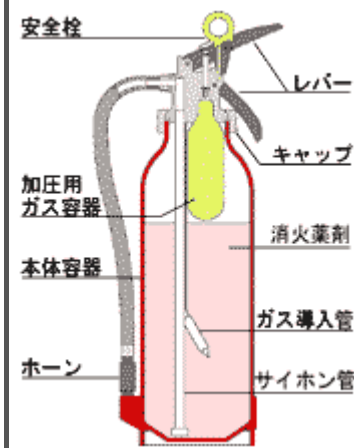
▼ 蓄 圧 式 消 火 器



1. 本体、キャップにサビ・変形、はないか。また、塗装ははげていないか。
2. 操作レバーが変形していないか。
3. キャップがゆるんでいないか。
4. ホースの先のホーン内部に、異物が詰まっていないか。
5. 安全栓がレバー固定装置にしっかり収まり抜けていないか。
6. 使用済表示のあるものは使用の有無を確認する。表示が不自然になっていないか。

(安全栓がしっかり収まっているのに使用済みになっている等)

▼ 加 圧 式 消 火 器



7. ゲージ付きの蓄圧式消火器は指示圧力計の針がグリーンゾーンを下回っていないか。

8. 消火器に明示された使用期限または使用期間を過ぎていないか。

※以上のチェックポイントに問題のある消火器は、疲労しています。

絶対にレバーを握らず、乱暴な扱いをしないで専門業者の点検を受けて、その指示に従ってください。

【点検をお願いします！】

消火器は、火災の初期消火に大変有効なものです。いざというときに100%の効果を発揮させるには、定期的な点検が大切です。半年に1度は点検しましょう。また、点検は専門業者に依頼するとなお安心です。必要なら、消火薬剤の詰め替えもできます。

【消火器の廃棄方法】

不要になった消火器は次のことを注意して廃棄してください。

- ・ 消火器は一般ごみの回収には出せません。お買い求めになった販売店か専門業者に引き取ってもらってください。(300～500円の分解・廃棄処理費用が必要です。)
- ・ 廃棄しようとする消火器は、絶対に分解したり、放射したりしないでください。

■ 問い合わせ先

彦根市消防本部予防課

TEL 0749-22-0332

FAX 0749-22-9427